握手 (3)

井上 ひさし

「それよりも、わたしはあなたをぶったりはしませんでしたか。あなたにひどい仕打ちをしませんでしたか、もし、していたなら、謝りたい。」

「一度だけ、ぶたれました。」

ルロイ修道士の、両手の人さし指をせわしく交差させ、打ちつけている姿が脳裏に浮かぶ。これは危険信号だった。この指の動きでルロイ修道士は、「おまえは悪い子だ。」とどなっているのだ。そして次は、きっと平手打ちが飛ぶ。ルロイ修道士の平手打ちは痛かった。

「やはりぶちましたか。」

ルロイ修道士は①悲しそうな表情になって、ナプキンを折り畳む。食事はもうおしまいなのだろうか。

「でも、わたしたちは、ぶたれてあたりまえの、ひどいことをしでかしたんです。高校二年のクリスマスだったと思いますが、無断で天使園を抜け出して東京へ行ってしまったのです。」

翌朝、上野へ着いた。有楽町や浅草で映画と実演を見て回り、夜行列車で仙台に帰った。そして待っていたのがルロイ修道士の平手打ちだった。「あさっての朝、必ず戻ります。心配しないでください。捜さないでください。」という書き置きを、園長室の壁に貼りつけておいたのだが。

「ルロイ先生は一月間、わたしたちに口をきいてくれませんでした。②平手打ちよりこっちのほうがこたえましたよ。」

「そんなこともありましたねえ。あのときの東京見物の費用は、どうやってひねり出したんです。」

「それはあのとき白状しましたが……。」

「わたしは忘れてしまいました。もう一度教えてくれませんか。」

「準備に三か月はかかりました。先生からいただいた純毛の靴下だの、つなぎの下着だのを着ないでとっておき、駅前の闇市で売り払いました。鶏舎から鶏を五、六羽持ち出して、焼き鳥屋に売ったりもしました。」

③ルロイ修道士は改めて両手の人さし指を交差させ、せわしく打ちつける。ただしあの頃と違って、顔は笑っていた。

「先生はどこかお悪いんですか。ちっとも召しあがりませんね。」

「少し疲れたのでしょう。これから仙台の修道院でゆっくり休みます。カナダへたつ頃は、前のような大食らいに戻っていますよ。」

確認テスト　本文を読んで、問いに答えなさい。

(1)　――線①「悲しそうな表情」とあるが、このときのルロイ修道士の心情として適当なものを選びなさい。

ア　自分が「わたし」をぶったことがあると聞き、驚(おどろ)いている。
イ　自分が「わたし」をぶってしまったことを悔(く)やんでいる。
ウ　「わたし」がぶたれるようなことをしたのを残念に思っている。
エ　「わたし」がやったことを改めて注意しようと思っている。

〔　　〕

(2)　――線②「平手打ちよりこっちのほうがこたえましたよ」とはどういうことか。適当なものを選びなさい。

ア　ルロイ修道士が口をきいてくれないので、自分のほうから話しかけようとしたということ。
イ　他のどんな人の平手打ちよりも、ルロイ修道士の平手打ちのほうがよほど痛かったということ。
ウ　平手打ちよりもルロイ修道士が口をきいてくれないことのほうが、つらさが身にしみたということ。
エ　一月間ルロイ修道士が口をきいてくれない期間のほうが、無断外出の期間よりも長かったということ。

〔　　〕

(3)　――線③「ルロイ修道士は改めて両手の人さし指を交差させ、せわしく打ちつける」とあるが、このときのルロイ修道士の心情として適当なものを選びなさい。

ア　「わたし」の無断外出に、改めて怒(いか)りがわいている。
イ　靴下や下着が売り払われていたと知り、驚いている。
ウ　無断外出を改めて白状させ、厳しく諭(さと)そうと思っている。
エ　悪いことをしたと指摘(してき)しつつも、昔を懐(なつ)かしく感じている。

〔　　〕